

## 立野町（たてのちょう）

天文二年三月島六郎衛門が当国、川東堂裏の郷（小立野）よりこの里に来り、小松の栄を見て、ひそかに我の移り住む好いところであると思い、第三右衛門並びに甥・姪をさそい、共にこの野田を開墾して、土地百貫文地（約10町歩）を得た。その功績により府君その土地を登録してここを立野村という。また、立野は天竜川の支流れ川に沿った砂地の村で芳川西側の人たちは、立野の知人に頼んで、竹藪の下などを借り、砂地を掘って、しょうが・さつまいも等を入れて冬を越させた。

## 古川町（ふるかわちょう）

古川という地名は、天竜川の古い河跡である。  
一六世紀の終わり頃、金折村の庄屋須山家の一族がこの土地に入植したのが最初のようなのだ。

## 金折町（かなおりちょう）

江戸時代には、金折村、東金折村、向金折村の3村にわけられていた。浜松市に合併する前は浜名郡芳川村金折であった。昔このあたりに、「宇津志日金折命」が住んでいたため地名が出来た。折はあまり縁起が良くないから折に変わり、金折になった。

## 老間町（おいまちょう）

平安時代には負馬郷といわれたが、また別の文書には老馬郷と出ている。このあたりは、馬のかいばにする草が生えていて、牧場であったようだ。ここは天竜川の中州で、馬の放牧が行われていたことから、老馬という地名が出来たようだ。伝説として、木曾義仲の重臣がこの地に落ち延びて「落人の里」を作り、「落人」たちが顔をかくす笠を作り出し、それがだんだん「老間笠」になったといわれ、又、負軍の将と馬ということで、負馬といわれると古老は説明する。

## 芳川町（ほうがわちょう）

昭和二九年（1954年）当時の芳川村は浜松市と合併した。  
旧村名の芳川の名をどこかの町名に残したいという考えを住民も理解して、芳川村の中心地だった大橋と神出の二つの字が芳川町と命名した。  
以前は、大橋は参野村に所属し、その新田の存在であった。又、神出は安松の一部で、津毛利神社の神田がいつのまにか神出に変化したものと思われる。

### 令和4年度 南区地域力向上事業 地域愛称マップ(芳川地区)

企画・発行 / 浜松市  
(浜松市 南区役所 区民生活課 南陽協働センター)

御協力 / 芳川地区自治会連合会

- ・石原町自治会
- ・安松町自治会
- ・芳川町神出自治会
- ・芳川町大橋自治会
- ・本郷町自治会
- ・本郷町東自治会
- ・頭陀寺町自治会

- ・参野町自治会
- ・恩地町自治会
- ・都盛町自治会
- ・大柳町自治会
- ・崩野町自治会
- ・御給町自治会
- ・下江町自治会
- ・四本松町自治会

- ・立野町自治会
- ・古川町自治会
- ・金折町自治会
- ・西伝寺町自治会
- ・老間町自治会
- ・老間団地自治会
- ・県営芳川団地自治会

引用 / 浜松市地形図 1/2500  
ガイドマップ愛称標識 芳川  
ふるさと芳川 愛称標識の由来(芳川地区 愛称標識設置委員会)

デザイン・印刷 /  
株式会社クリエイティブプロジェクト・ズーム